

ひらがな・漢字・カタカナ

URL : <https://youtu.be/5QKz8jpH4mA>

今回は「ひらがな・漢字・カタカナ」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には " ふりがな " があります。
後半は少しだけ速く (+20%) なり、漢字に " ふりがな " はありません。
学習にお役立ててください。

■私のこと

私の名前はエマです。20さいの学生です。オーストラリアから来ました。今は日本の大学で勉強しています。
日本にきょうみを持ったのは、高校生の時です。本や映画で日本の文化を知り、日本で生活してみたいと思いました。今は日本語とこくさいかんけいについて学んでいます。

はじめは知らないことが多く、不安もありました。でも、友だちや先生に助けをもらいながら、毎日楽しくすごしています。
休みの日は、町を歩いたり、カフェで勉強したりします。新しい場所を見つけることが好きです。

まだ日本語は勉強中ですが、前よりたくさん話せるようになりました。これからも日本語を学び、自分を成長させたいと思っています。

■日本語の文字を見て思ったこと

日本語の文をはじめて見た時、とてもむずかしく見えました。一つの文の中に、ちがうしゅるいの文字がありました。まるい文字もあれば、まっすぐな文字もあります。形や大きさも同じではなく、文がとても長く見えました。

わたし くに
私の国、オーストラリアでは、アルファベットを使います。文字の数は少なく、
かたち
形もあまりかわりません。そのため、日本語の文字はとても特別に見えました。

よ まえ ふあん きも
読む前に不安な気持ちになりました。ほんとうに読めるようになるのか、しん
ぱいでした。はじめは、どの文字から学べばよいのか分かりませんでした。書
くとき
く時も、まちがえることが多かったです。

もし
でも、文字にはそれぞれやくわりがあると知りしました。ひらがなやカタカナ、
かんじ
漢字には使い方のちがひがあると分かりました。少しずつ、文字を見分けるこ
とができるようになりました。まえよりも、ぶんがよ
ぶんが読みやすくなりました。
まだ読めない文字や、書けない文字もあります。まちがえてしまうこともあり
ます。でも、日本語はとてもおもしろくて、あたらしい
新しい文字をおぼえるたびにうれ
しい気持ちになります。

■日本語には三つの文字がある

日本語には、三つのしゅるいの文字があります。一つだけではありません。
「ひらがな」「漢字」「カタカナ」です。日本語の文では、この三つをいっし
よに使います。

はじめて見た時、なぜ三つもあるのか分かりませんでした。一つの文字だけで
書けば、もっとかんたんだと思いました。でも、日本語では、それぞれの文字
に大切なやくわりがあります。

「ひらがな」は、日本語のいちばん基本になる文字です。文をつなぐことばや、
やわらかい言い方を書く時に使います。子どもがはじめに学ぶのも、ひらがな
です。ひらがながないと、日本語の文は作れません。

「漢字」は、ことばの意味をはっきりさせる文字です。何のことを書いている
のか、すぐに分かるようにします。同じ読み方でも、漢字がちがうと意味もか
わります。

「カタカナ」は、外国のことばや、名前、音をあらわす時によく使います。目
立たせたいことばを書く時にも使われます。

みっ 三つの文字は、それぞれちがうはたらきをしています。みっ 三つをいっしょに使う つか
ことで、ぶん 文が読みやすくなり、いみ 意味も分かりやすくなります。ひとつの文字だけ
では、にほんご 日本語らしい文になりにくいです。

■ ひらがなは文の土台

ひらがなは、やわらかい形の文字です。まるみのある形が多く、やさしいいん
しょうがあります。にほんご 日本語の文では、ひらがなをととても多く使います。文の中
で、いちばん多く見る文字です。

「は」「を」「に」「が」などは、ひらがなで書きます。これらは、ことばと
ことばをつなぐ大切な文字です。だれが、何を、どこで、どうしたのかを分か
りやすくします。ひらがながあることで、文の意味がはっきりします。

また、動くことをあらわすことばの後ろにも、ひらがなを使います。たとえば、
「食べる」「見ます」のように、漢字のあとにひらがながつきます。これを
「送りがな」と言います。送りがながあると、読み方や形が分かりやすくなり
ます。

ひらがなは、むかしの漢字から生まれた文字です。
漢字が分からない時も、ひらがなで書くことができます。そのため、文を止め
ずに読むことができます。ひらがなが分かると、日本語の文が少しずつ読める
ようになります。

はじめに、ひらがなを学ぶ人が多いです。ひらがなは、日本語のいちばん大切
な土台です。日本語を学ぶ上で、なくてはならない文字です。

■ 漢字は意味をあらわす

漢字は、ひとつの文字に意味があります。文字を見るだけで、「何の話か」が少
し分かることがあります。たとえば「山」は山の形に見えますし、「川」は水
がながれる形に見えます。こういう字は、見た目からイメージしやすいです。

かんじ ちゅうごく き もじ にほん にほんご ぶん なか
漢字は、中国から来た文字です。日本では、日本語の文の中で、ひらがなとい
っしょに使います。漢字は、物の名前や場所、気持ちなどをあらわす時にも使
います。

かんじ つか ぶん よ め み とき
漢字を使うと、文が読みやすくなります。なぜなら、目を見た時に、たいせつ
なことばがすぐ分かるからです。たとえば「きょう は がっこう に いき
ます」より、「今日 は 学校 に 行きます」のほうが、意味をつかみやす
いです。漢字があると、文の中で「大事なことば」が目に入りやすくなります。

おな よみかた かんじ いみ
また、同じ読み方でも、漢字がちがうと意味がかわります。たとえば「はし」
は、「橋」「箸」などがあります。音だけだと分かりにくいですが、漢字があ
ると、どちらの意味かすぐ分かります。

はじめは、むずかしく見えます。しゅるいも多く、書くのもたいへんだと思
います。でも、よく見る字から学ぶと、少しずつ分かるようになります。まずは、
まいにちつか じ ひと にち つき とし いま くだり み しょく
毎日使う字（人、日、月、年、今、行、見、食など）からおぼえると、読む力
が上がります。漢字が分かると、文を読むのが早くなります。

■カタカナは生活でよく見る

カタカナは、かたじけなく形かたちの文字です。ひらがなよりも、せんがまっすぐで、
形かたちがはっきりしています。

カタカナは、がいこくがいくのことばを書く時によく使います。たとえば、パン、コーヒ
ー、ホテル、タクシーなどです。日本語の中で、外国の音をあらわすための文
字です。日本は外国から来たことばも多いので、カタカナをよく使います。

また、ひと 名前なまえや会社かいしゃの名前なまえを書く時にも使われます。しょうひん名なや店みせの名
前なまえも、カタカナで書かれることがあります。そのため、まちまちを歩いてみると、カ
タカナをたくさん見ます。駅えきのあんない、スーパーの売り場うりば、メニュー、本ほん
のタイトルなど、いろいろな所ところにあります。

さらに、音を強く見せたい時にもカタカナを使います。たとえば、「ドキドキ」「ワクワク」などの音のことばです。ひらがなよりも、目に入りやすくなります。

はじめは、形がにっていて読みにくいと感^{かん}じるかもしれません。でも、よく見ることばからおぼえると、だんだん読^よめるようになります。カタカナが分^わかると、買^{かい}い物や食^{しょく}事の時にとてもやくに立^たちます。カタカナは、日本^{にほん}で生活^{せい}するために大^{たい}切^{せつ}な文字^{もじ}です。町^{まち}の中^{なか}で、毎^{まい}日出^{にち}会^あう文字^{もじ}です。

■外国の人から見た日本の文字

外国^{がいこく}の人^{ひと}から見^みると、日本^{にほん}語^ごの文字^{もじ}はとても特別^{とくべつ}に見^みえます。三^{みつ}つの文字^{もじ}をいっしょ^{いっしょ}に使う^{つか}国^{くに}は、あまり多^{おほ}くありません。多^{おほ}くの国^{くに}では、一^{ひと}つの文字^{もじ}のしくみを使^{つか}います。

たとえば、英^{えい}語^ごではアルファベ^つットを使^{つか}います。文字^{もじ}は二^に十^{じゅう}六^{ろく}こで、形^{かたち}も大^{おほ}きくはかわりません。中^{ちゅう}国^{ごく}語^ごでは、漢^{かん}字^じだけを使^{つか}います。日本^{にほん}語^ごの漢^{かん}字^じとにいてる字^じもありますが、形^{かたち}や意^い味^みがちがうことあります。ス^すペ^ぺイ^いン^ん語^ごやフ^ふラ^らン^んス^す語^ごも、アルファベ^つットを使^{つか}います。

ひらがなは、文字^{もじ}が四^{よん}十^{じゅう}六^{ろく}こあります。「あ・い・う・え・お」から始^{はじ}まる文字^{もじ}です。にござった音^{おと}や、小^{ちい}さい文字^{もじ}を入^いれると、つ^{つか}か^える音^{おと}はも^{おほ}と多^{おほ}く^{おほ}なり^{おほ}ます。

カタカナも、基^き本^{ほん}の文字^{もじ}は四^{よん}十^{じゅう}六^{ろく}こあります。音^{おと}はひらがなと^{おな}同^{おな}じ^{おな}です^{おな}が、形^{かたち}がちが^{おと}い^います。カタカナも、「ガ」や「パ」などの音^{おと}を入^いれると、つ^{つか}か^える音^{おと}が^{おと}ふ^{おと}え^{おと}ます。

漢^{かん}字^じは、と^{おほ}ても多^{おほ}い^{おほ}文字^{もじ}です。日本^{にほん}でふ^{つか}つ^{つか}う^{つか}に使^{かん}わ^{かん}れる^{かん}漢^{かん}字^じは、二^に千^{せん}百^{ひゃく}三^{さん}十^{じゅう}六^{ろく}字^じあり^{ろく}ます。これ^{ろく}を「じ^じょう^{じょう}よう^{よう}漢^{かん}字^じ」^いと^いい^いま^いす。でも、じ^じし^しよ^よには何^{なん}万^{まん}字^じもの漢^{かん}字^じが^じあり^じます。学^が校^{こう}では、小^{しょう}学^{がっこう}校^{こう}で千^{せん}二^に十^{じゅう}六^{ろく}字^じを^まな^まび^ます。

そのた^{おと}め、日本^{にほん}語^ごの文^{ぶん}をは^{ぶん}じ^じめ^じて見^みると、と^{おと}てもむ^むず^ずか^かしく^かん^{かん}じ^じま^ます。一^{ひと}つ^つの文^{ぶん}の中^{なか}に、ち^ちが^かう^か形^{かたち}の文^{もじ}字^{もじ}が^よま^よざ^よつ^よて^よいる^よから^よです。ど^どこ^こから^こ読^よめ^よば^よい^よのか^よ、分^わか^から^かなく^かなる^か人^{ひと}も^{ひと}い^いま^いす。



Easy Japanese-listening-SUSHI

